

(国語科)

言語活動を活発化し、自分の考えをまとめ、伝え合う力を高めるための指導法の工夫  
《読む・書く・話す》力の育成

大阪市立東三国小学校 出水守 北野悠 菅沼俊輔

## 1. はじめに

平成26年度より、言語活動を充実させるための指導法の研究に取り組みはじめ、思いや考えを伝える力を育成するとともに、語彙力をつけ「読む」力と「書く」力との関連を図りながら研究を進めてきた。しかしながら、平成26年度末の「しんだん」の結果では、3つの学年で大阪市平均を下回った。また、本校児童アンケート調査で、「自分の考えをよく発表している（どちらかといえばしている）」と答えた児童は、25年度66%、26年度58%と減少していた。一昨年度の研究の課題において、書く練習を重視し、自分の思いや考えを書き表すことができるように支援していく必要を感じた。そこで、昨年度から、読み、書き、話す（聞く）というそれぞれの活動の中で、下記のような点（育てたい子ども像）に重点を置くこととした。教材と出会い「読む」中で、考えや思いを「書き」、ペアで、グループで、学級全体で「話す」場を設け、観点を明らかにして「聞く」活動を大切にしたいと考え、取り組んできた。

平成27年度末の「しんだん」の結果は、大阪市平均を下回った。しかし、本校アンケート調査で、自分の考えをよく発表している（どちらかといえばしている）」と答えた児童は、27年度は61%で3ポイント上昇した。昨年度の研究の課題においては、基礎的な言語事項を習得し、文字の読み書きができる力を重点的に伸ばす必要を感じた。そこで、平成28年度は、言語活動をさらに活発化させ考えや意見を伝える技能を伸ばすとともに、基礎的な言語事項の習得の向上を図るために、視写の活動や読む活動に重点を置いていきたいと考えた。

## 2. 研究の概要

### (1) 育てたい力と能力

- ・基礎的な言語事項を習得し、文字の読み書きができる力
- ・考えや意見を持ち伝える技能（話す・書く力）  
{作文、新聞、ポスターセッション等の発表}
- ・自分で課題を持ち（選択し）、意欲的に読んだり聞いたりする態度
- ・複数の文章、意見、考えを比較して違いを認識する力
- ・ヒントとなる補助教材、ワークシート、短作文等を活用し、考えや意見を振り返る力

### (2) 具体的な取り組みについて

#### ① 研究の柱

- 考えや意見を持ち、意欲的に伝え合う（読む・書く・話す）力の育成
- 支援の方法の研究（ワークシートや資料、学習の場やグループ編成）

#### ② 具体的方策

- 個々に調べて意見や考えを持つ（教材文、資料等を読みとる力）ことができるように、課題設定や学習内容を工夫する。
- 調べたことをまとめる（書く力）ことができるように、新聞、ポスターセッション等の発表の場を工夫する。
- 活発に発表し合う（それぞれの発表を聞いて違いをとらえる力）ことができるよ

うに、発表の観点を明確にした聞き取りメモ等の工夫、活用を図る。

●読む力の育成

- ・図書館の団体貸出の利用を図る。
- ・学校図書館、電車図書館の活用を図る。
- ・読書ノートの取り組みや読書週間等の取り組みを進める。
- ・天声こども語の音読（黙読等）を継続的に取り組む。（3～6年）
- ・辞書引き学習に継続して取り組み、辞書引きを様々な場で活用する。

●書く力の育成

- ・学年に応じた目標時間・文字数を設定して視写に取り組む。
- ・天声こども語学習ノートの活用を図る。（3～6年）
- ・書く時にポイントを明記したワークシートを作成、活用する。

●話す力の育成

- ・早口言葉や暗唱に取り組む。
- ・発表の際に聞き比べるポイントを明記した相互評価シートを活用する。
- ・朝の会、終わりの会、ポスターセッション、グループ討議等の場を活用する。

(3)実践例について

①低学年の取り組み「いろいろなふね」について

- ・図書の団体貸出、ワークシートの工夫
- ・いろいろな乗り物の紹介ブックを作成し、電車図書館に展示
- ・発表を聞いた感想の書き方の掲示、発表し合うグループ編成の工夫

②高学年の取り組み「第5学年 立場を決めて討論をしよう」について

- ・児童に身近な論題の選定、立論、質問、反論、最終弁論カードの活用
- ・指導用CDを活用したモデル討論、司会用の台本作成
- ・一人一役の討論の場の設定、聞き取りメモ、判定カードの活用

3. 成果と今後の課題

(1)成果

- ① 活動目標を設定したり身近な題材を選んだりして、読む、書く、話す活動を一連の流れととらえて取り組むと共に、その時々に応じた支援により、児童に「考えや意見を持ち、意欲的に伝え合う力」の向上を図ることができた。
- ② 図書・図書館の取り組み、読書ノート、天声こども語・学習ノート、辞書引き学習、視写の取り組み、暗唱、ペア・グループの話合いの場の工夫等により、読み書きが速くなり、自信をもって発表する等の「基礎的な言語活動能力の向上」につながった。

(2)課題

- 「読む、書く、話す」のいずれの場合においても、まだまだ個人差が見られるので、継続した取り組みを行う必要がある。
- ・ 読む活動において、内容を正しく読み取る力の育成が必要である。
- ・ 書く活動において、要旨をとらえて、丁寧に書く力の育成が必要である。
- ・ 話す活動において、視点を明確にして話したり聞いたりできる力の育成が必要である。